

参考資料

飯塚市都市計画審議会委員

選出区分	所属団体等	職名
学識経験のある者 (5名)	近畿大学産業理工学部	教授
	飯塚商工会議所	理事・事務局長
	いいつか男女共同参画推進ネットワーク	事務局次長
	飯塚市農業委員会	会長
	飯塚市商工会	副会長
市議会の議員 (4名)	市議会議員	総務委員会
	市議会議員	総務委員会
	市議会議員	経済建設委員会
	市議会議員	経済建設委員会
関係行政機関の 職員(4名)	国土交通省九州地方整備局 北九州国道事務所	事務所長
	飯塚警察署	交通第一課長
	福岡県飯塚県土整備事務所	所長
	福岡県飯塚農林事務所	農山村振興課長
本市に住所を 有する者(3名)	飯塚市自治会連合会	副会長
	飯塚市自治会連合会	理事
	飯塚市自治会連合会	幹事

用語の解説

用語	解説
駅前広場	鉄道と他の交通手段とを結び、効率的な交通処理を図ることを目的として鉄道駅に設置される広場
オープンスペース	建物のない緑地や空地を意味し、都市計画で心理的な憩いを人々にもたらし、また防災上の役割を負う場所
環境空間	駅前広場などに緑地、オープンスペース、モニュメント、トイレや防災施設などの施設が整備される空間
交通結節点	自転車や自動車、バス、電車などの複製の交通手段が集まり、相互に乗り換えることのできる場所
自由通路	鉄道構内を横断する通路のうち、鉄道利用者に限定されない歩行者や自転車が通行する通路
地域公共交通網形成計画	地域にとって望ましい公共交通網のすがたを明らかにするマスタープランとしての役割を果たす計画
地平駅	駅本屋の敷地が、周辺道路面の高さと同程度の駅
通過交通	その地域に用がなく、単に通過するのみの交通
都市計画道路	都市の拠点間や都市内の各地域間を連携した幹線道路で都市計画法に基づき決定される道路
バリアフリー	障害のある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものが除去されていること
歩行者動線	歩行者が移動する軌跡・方向などを示した線のこと。また、歩行者を一定の目的の場所に誘導するためのルートのこと
ユニバーサルデザイン	子どもから高齢者、性別、国籍、人種、障害の有無等に関わらず、全ての人々が使える都市や生活環境を計画する考え方

菰田・堀池地区 活性化基本方針

平成 30 年 12 月

飯塚市

目次

1.	<u>菰田・堀池地区活性化基本方針策定の目的について</u>	1
2.	<u>菰田・堀池地区の現状について</u>	2
3.	<u>菰田・堀池地区の課題について</u>	8
4.	<u>菰田・堀池地区活性化基本方針に関連する上位計画</u>	9
5.	<u>菰田・堀池地区における課題への対策について</u>	13
6.	<u>菰田・堀池地区のコンセプトについて</u>	14
7.	<u>菰田・堀池地区の空間づくりにあたっての配慮事項</u>	18
8.	<u>菰田・堀池地区の活性化の実現に向けて</u>	19

1. 菰田・堀池地区活性化基本方針策定の目的について

菰田・堀池地区は、JR飯塚駅を中心とした、飯塚市の中心拠点の一つです。明治後期から昭和初期にかけて石炭産業が盛んであった時代には筑豊地域の中心、飯塚の玄関口として栄えました。

しかし、菰田・堀池地区では、近年人口減少や高齢化が進んでおり、定住促進や公共交通機能の強化等が必要とされています。

飯塚市では、「拠点連携型の都市」を将来における都市づくりの基本的な考え方としており、中心拠点と地域拠点に必要な機能を集約し、拠点間を公共交通機関で結ぶことにより相互に補完することで生活の利便性を高めていくことを目指しているところです。

以上を踏まえて、飯塚市の中心拠点の一つとしてふさわしいまちづくりを進めるにあたって、今後の菰田・堀池地区のまちづくりの指標となる基本的な考え方を「菰田・堀池地区活性化基本方針」として策定することとします。

現在の菰田・堀池地区の様子



2. 菰田・堀池地区の現状について

(1) 位置

- ・ J R飯塚駅が最寄り駅（福北ゆたか線）、J R新飯塚駅まで1 駅
- ・ J R飯塚駅から飯塚市役所まで直線距離で約 2 km
- ・ J R飯塚駅の東側には 1 級河川である「遠賀川」、西から北側にかけて遠賀川水系の「穂波川」が流れている。

位置図



© INCREMENT P CORPORATION

(2) 人口動向

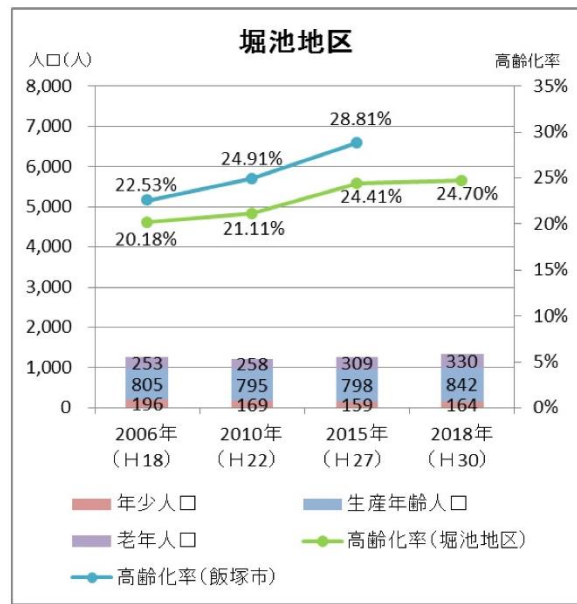
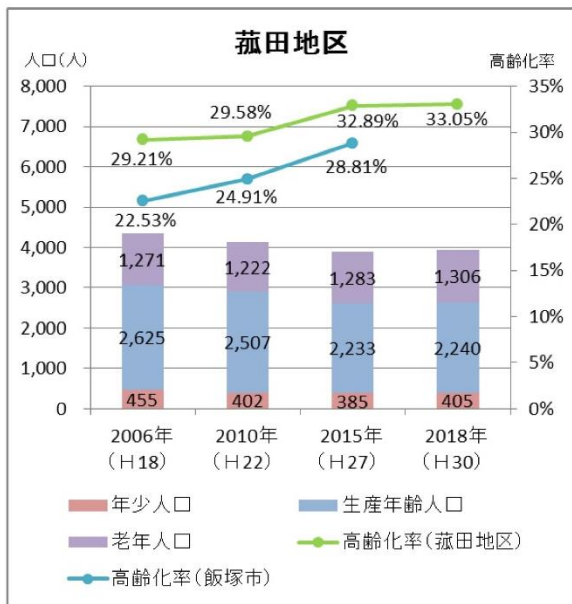
- ・飯塚市の人口は1995年（平成7年）をピークに減少傾向にあり、高齢化率も上昇している。
- ・菰田地区の人口は減少傾向にあり、飯塚市全体の高齢化率に比べ、やや高い傾向にある。

年齢3区分別人口の推移



資料：実績値 総務省「国勢調査」より集計

推計値 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」より集計



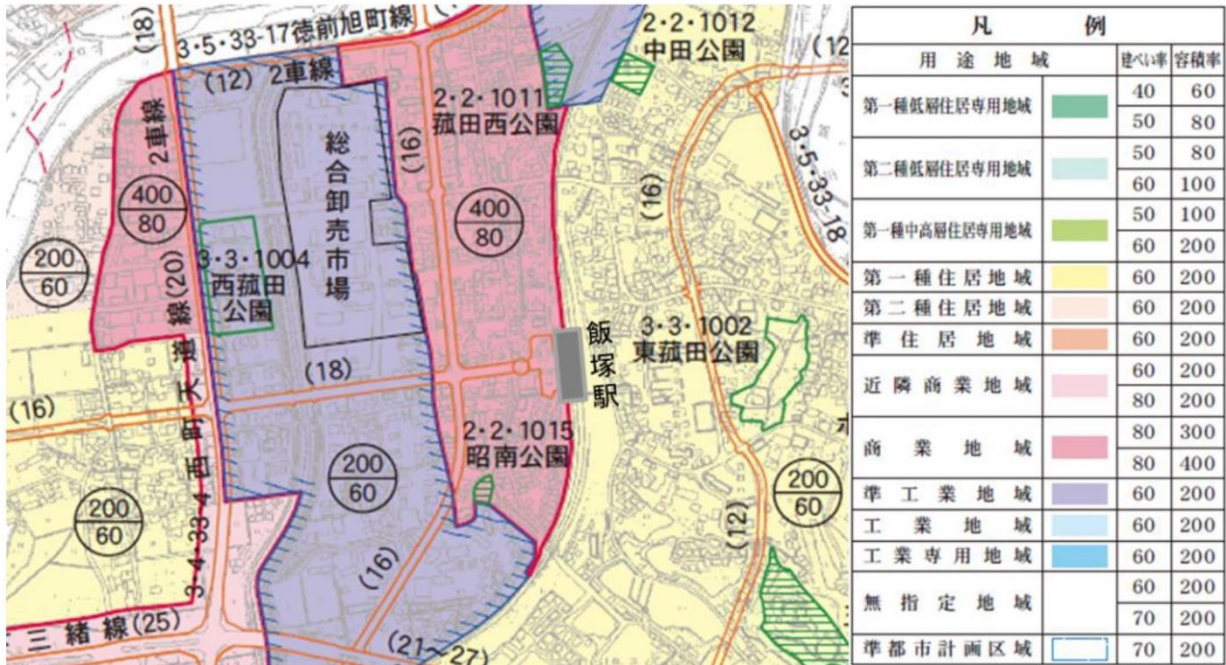
資料：飯塚市住民基本台帳より集計

2010年・2015年高齢化率（飯塚市）は総務省「国勢調査」より集計

2006年高齢化率（飯塚市）は総務省「国勢調査」2005年の高齢化率を参考として集計

(3) 周辺の用途地域・土地利用

- ・卸売市場周辺の都市計画上の用途地域は準工業地域、JR飯塚駅西側は商業地域、JR飯塚駅東側は第一種住居地域となっている。
- ・西菰田公園、東菰田公園等の都市計画公園が長期未整備となっている。



(4) 公共施設等

- ・卸売市場敷地の南側には菰田保育所が立地している。
- ・卸売市場敷地とJR飯塚駅の間にある県道473号瀬戸飯塚線沿いには医療機関や、郵便局、銀行等の生活利便施設が集積している。
- ・JR飯塚駅東側には菰田交流センター、近畿大学九州短期大学が立地している。



JR飯塚駅



菰田保育所

(5) 道路網

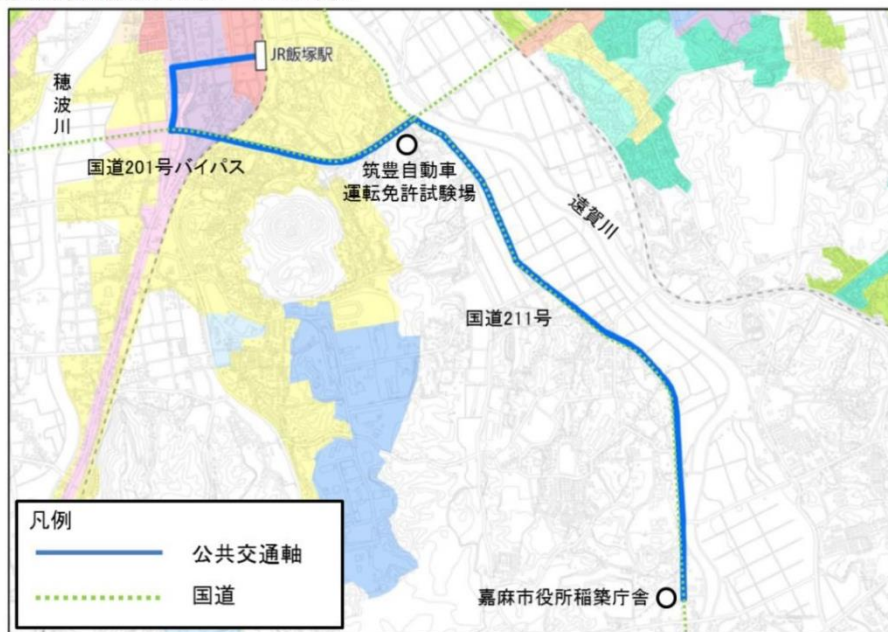
- ・ 国道 201 号飯塚庄内田川バイパスが開通し、交通利便性が向上している。
- ・ 菰田・堀池地区内の道路の一部は、筑豊地域の各拠点を効率的に接続する公共交通軸として設定されている。



©INCREMENT P CORPORATION

都市構造の形成方針図（公共交通軸の個別詳細図）

(嘉麻市役所稲築庁舎周辺～JR飯塚駅)



筑豊都市圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針より作成

(6) JR飯塚駅の現状

- ・飯塚市内の福北ゆたか線には7つの駅があり、下表より、全体の利用者数は年々微増傾向である。
- ・駅別で見ると、新飯塚駅の利用者数は増加傾向にあるが、その他の駅は横ばいか減少傾向である。
- ・当地区的最寄り駅である飯塚駅は、新飯塚駅に次いで2番目の利用者数であるが、若干ではあるが減少傾向にある。2016年度（平成28年度）の乗車人員は414千人/年。

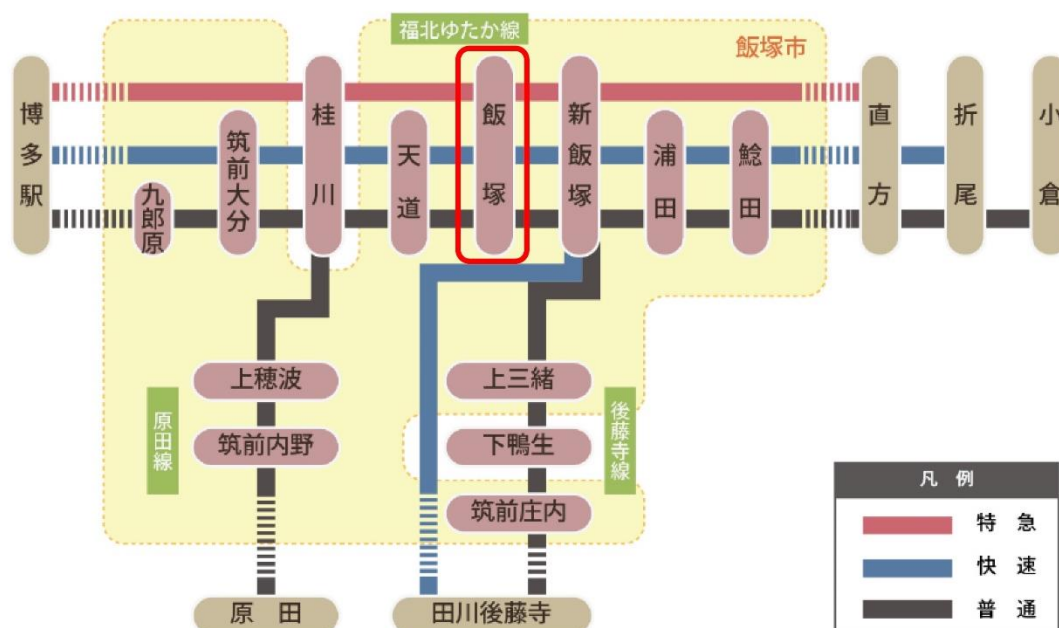
飯塚市内の福北ゆたか線各駅の年度別乗客数（※乗車人員のみ）

（単位：千人/年）

年度	福北ゆたか線							計
	鯉田駅	浦田駅	新飯塚駅	飯塚駅	天道駅	筑前大分駅	九郎原駅	
2011(H23)	141	100	1,475	435	198	285	5	2,639
2012(H24)	145	98	1,505	427	197	282	7	2,661
2013(H25)	147	101	1,554	431	201	278	7	2,719
2014(H26)	152	105	1,541	413	195	265	6	2,677
2015(H27)	150	105	1,579	409	198	268	5	2,714
2016(H28)	142	99	1,618	414	196	267	3	2,739

統計いづかより作成

飯塚市内の鉄道駅と路線図



出典：第2次飯塚市地域公共交通網形成計画

(7) 公共交通網（バス路線）

- ・ JR飯塚駅から県道473号瀬戸飯塚線上の最寄りの民間事業者のバス停までは約200mある。
- ・ 当地区において利用できるバス路線は、民間事業者1社（西鉄）及びコミュニティバス1路線である。

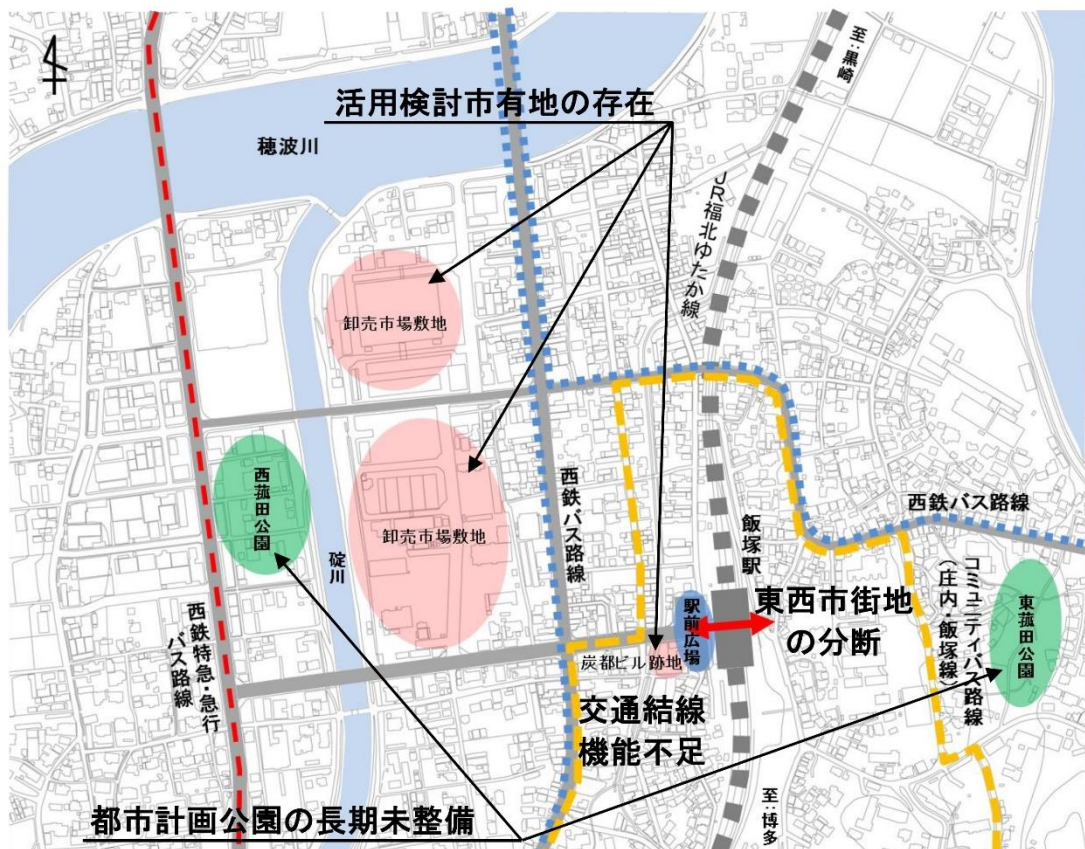
地区周辺のバス路線図



3. 菰田・堀池地区の課題について

菰田・堀池地区は、飯塚市の中心拠点の一翼を担ってきましたが、高齢化や人口減少等によりかつての賑わいが失われつつあります。その背景には以下のような課題があります。

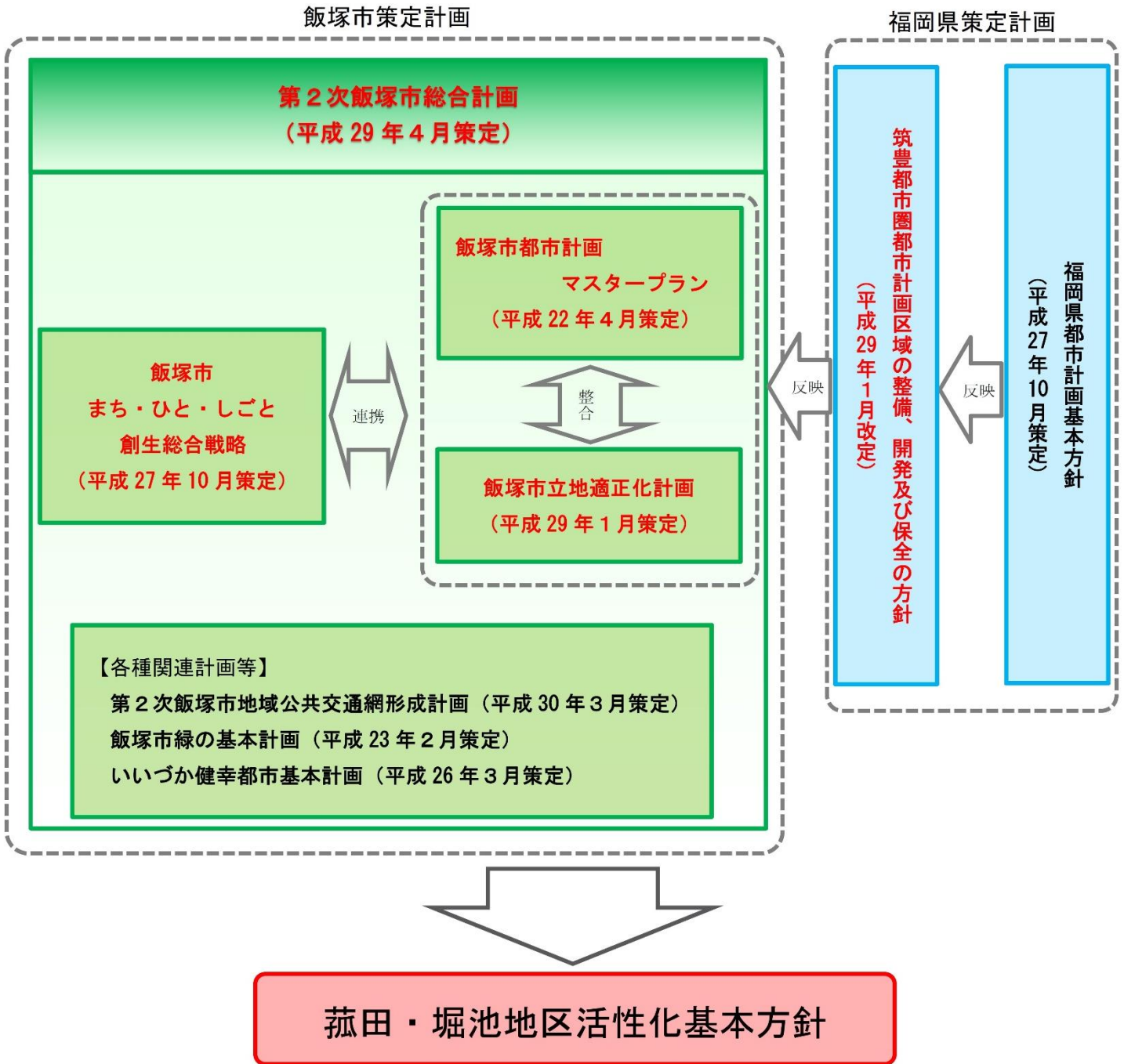
- (1) JR福北ゆたか線による東西市街地の分断
 - ・JR飯塚駅を挟んで市街地が東西に分かれており、アクセス強化による一体化が望まれる。
- (2) JR飯塚駅の交通結節機能の不足
 - ・JR飯塚駅はバリアフリー未対応となっている。また、西側駅前広場まで大型バスの乗り入れができない状態が続いており、交通結節機能の強化が必要となっている。
- (3) 都市計画公園の長期未整備
 - ・西菰田公園、東菰田公園等の長期未整備の都市計画公園が存在し、計画の見直しが必要である。
- (4) 活用検討市有地の存在
 - ・飯塚市地方卸売市場の移転が2021年に予定され、その後の利活用が未定であり、JR飯塚駅前には炭都ビル跡地が未活用となっている。



4. 菰田・堀池地区活性化基本方針に関連する上位計画

菰田・堀池地区活性化基本方針を策定するにあたって踏まえるべき関連する上位計画について、その関連性を整理します。

上位計画の関連性



①第2次飯塚市総合計画（平成29年4月策定）

○まちづくりの基本理念

- ・人権を大切にする市民協働のまち
- ・共に支えあい健やかに暮らせるまち
- ・活力とうるおいのあるまち
- ・やさしさと豊かな心が育つまち
- ・水と緑豊かな快適で住みよいまち

②飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年10月策定）

○4つの基本目標

- ・大学力と連携し、地域経済を牽引するまちづくり
- ・安心して出産・子育てができるまちづくり
- ・次代を担うひとを育てる学びのまちづくり
- ・健幸で魅力あふれるまちづくり

③筑豊都市圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

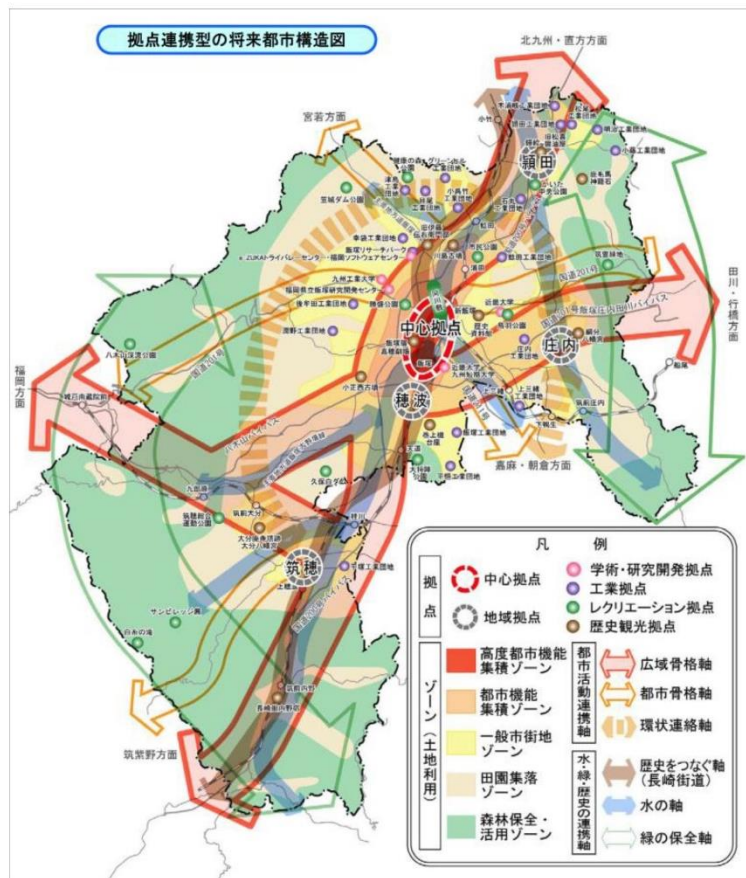
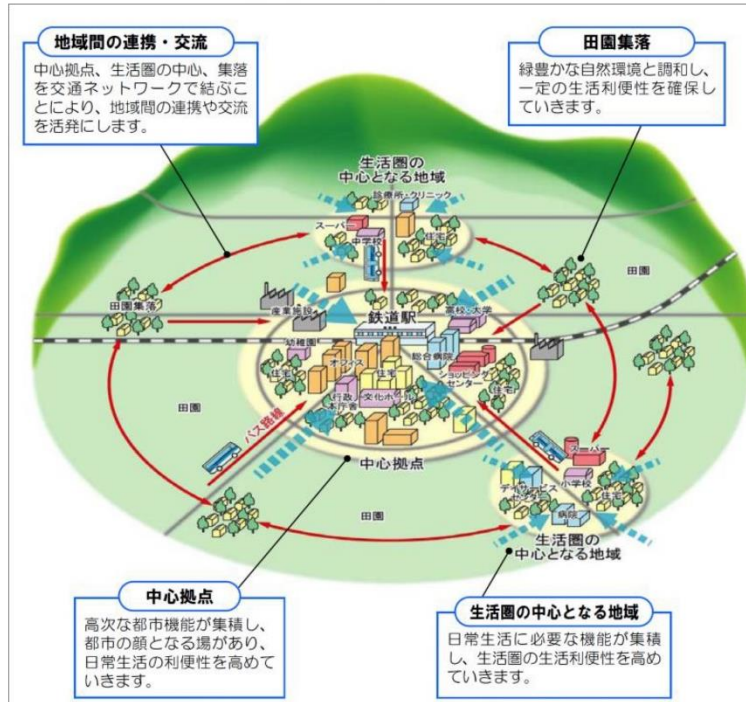
（平成29年1月策定 福岡県）

○都市構造の形成方針

人口減少・高齢社会の到来に対応する都市づくりにおいては、広域的な都市連携を進めるとともに、個々の都市特性に応じた集約型の都市形成が重要になります。今後は、これまでの拠点形成の考え方に加え、各拠点を効率的に接続する公共交通軸を設定し、同軸沿線の一部にも都市機能や居住機能の誘導を行うことにより、これまでの“拠点を中心とした都市づくり”から、“拠点と公共交通軸による集約型の都市づくり”へと拡充を図り、便利な場所で暮らせる集約型の都市づくりを進めていきます。

④飯塚市都市計画マスタープラン（平成22年4月策定）

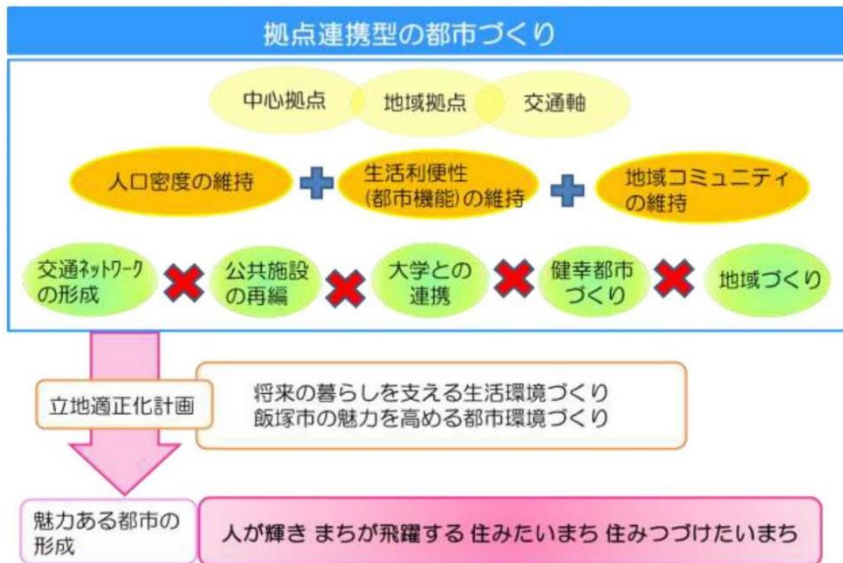
「拠点連携型の都市」のイメージ



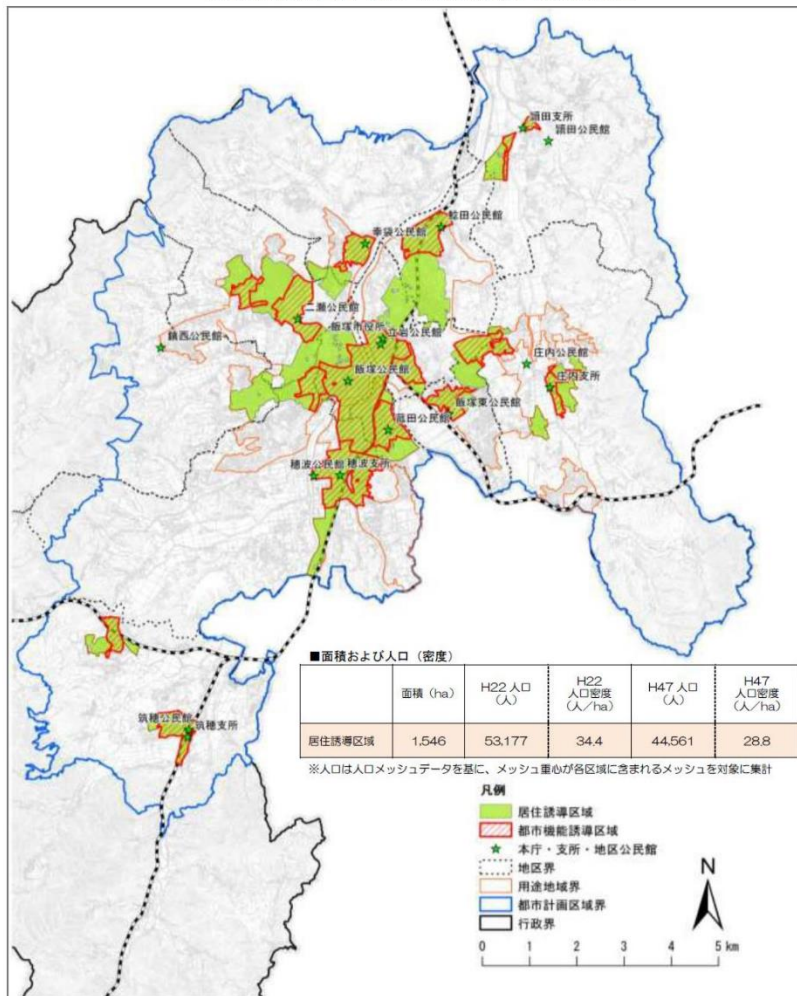
出典：飯塚市都市計画マスタープラン

⑤飯塚市立地適正化計画（平成 29 年 1 月策定）

拠点連携型の都市づくり整理図



都市機能誘導区域と居住誘導区域の設定



出典：飯塚市立地適正化計画

5. 菰田・堀池地区における課題への対策について

菰田地区、穂波地区及び徳前地区の住民で構成された「JR飯塚駅周辺地区活性化を考える会」から、地域課題を解決する方策を議論するワークショップ等を経て取りまとめられた提言書が平成30年10月に飯塚市へ提出されました。

JR飯塚駅周辺地区活性化に関する提言書

(平成30年10月 JR飯塚駅周辺地区活性化を考える会)

- ・ JR飯塚駅周辺活性化を図るため、201号バイパス、バス路線、鉄道路線の交通の連携や利便性を活かし、交通ネットワークの拠点であるJR飯塚駅の機能強化を検討すること。
- ・ JR飯塚駅周辺地区は、人口減少及び高齢化が進行し、空き店舗の増加など地区の活力が低下していることが課題となっていることから、卸売市場敷地を含めたJR飯塚駅周辺地区には、居住者の利便性が向上する施設を整備・誘導し、将来的に定住促進、人口増加につながる中心拠点にふさわしい賑わいの創出を図ること。
- ・ 上記の施設整備・誘導には、民間活力を積極的に活用すること。
- ・ 計画だけで未整備となっている都市公園は必要性を再度検討し、見直しを含め効率的・効果的な公園整備をすること。



ワークショップの風景



考える会会長から市長への提言風景

6. 菰田・堀池地区のコンセプトについて

(1) 飯塚市都市計画マスタープラン地域別構想

菰田地域の将来像

新たな活力を育み、住みやすさが実感できる

賑わいと潤いのあるまちづくり

地域づくりの基本目標

①多くの人が集う、活気あるまちづくり

本地域は、近畿大学九州短期大学、地方卸売市場などの地域資源を有し、古くから街なかの一角を担ってきた地域です。これらの地域資源を活用して、多くの人々が集い、商業・業務、流通、学術などの様々な活動が活発に行われるまちを目指します。

②広域交通の利便性を活かした住み続けられるまちづくり

飯塚駅を有し、国道 201 号飯塚庄内田川バイパスが東西に通過している広域交通の利便性を活かして、安全・安心で便利な居住環境のあるまちを目指します。

③水辺空間や緑を活かした潤いあるまちづくり

日々の暮らしの中で、遠賀川や穂波川、熊添川、碓川などの水辺空間や五穀神公園など、自然の恵みや楽しさを実感でき、自然と生活が調和した潤いのあるまちを目指します。

穂波地域の将来像

広域交通の利便性を活かし、多様な都市活動と魅力ある暮らしが生まれる

快適生活のまちづくり

地域づくりの基本目標

①安らぎや潤いを大切にした生活利便性の高い居住環境のまちづくり

身近にある田園や自然環境の中で、安らぎや潤いが感じられ、地域拠点にふさわしい魅力ある都市機能が整備された、住み続けたいようなまちを目指します。

②恵まれた交通利便性を活かした拠点性の高いまちづくり

本地域は、国道 201 号飯塚庄内田川バイパス、国道 200 号バイパスなど広域交通の利便性により、商業、工業が発展している地域です。今後も、広域交通利便性を活かした計画的な市街地形成や商工業の集積を図り、拠点性の高いまちを目指します。

③自然の恵みを活かし、水と緑を大切にするまちづくり

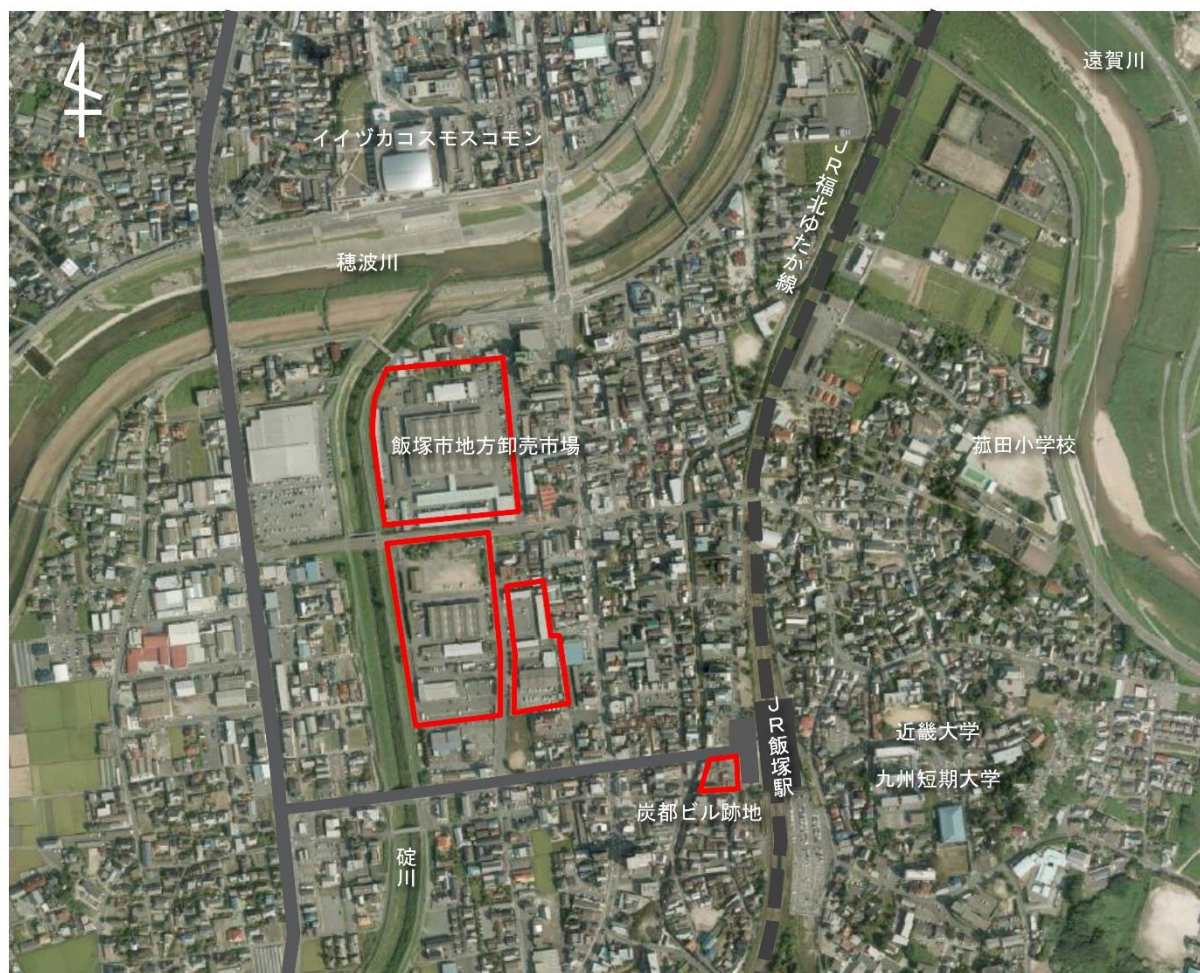
本地域には、市街地の背後に田園、森林が広がり、地域の個性を育んできました。これまで守り、育てられてきた自然豊かな森林や河川、美しい田園を保全・活用し、自然との調和のとれたまちを目指します。

(2) 菰田・堀池地区のまちづくりの方針

当該地区に係る、飯塚市都市計画マスタープランに掲げる地域の将来像や地域づくりの基本目標を踏まえ、菰田・堀池地区の活性化を実現するため、子育て世代から高齢者世代まで多くの人々が集い、新たな活力が育まれるまちを目指します。

また、この地域が将来にわたって飯塚市の中心拠点の一翼を担い続けられるよう、多様な都市機能の誘導を図り、賑わいと潤いが生まれ、快適な生活を営む場を創出します。

菰田・堀池地区航空写真



(3) 菰田・堀池地区のまちづくりのコンセプト

上位計画やJR飯塚駅周辺地区活性化を考える会からの提言を踏まえ、菰田・堀池地区のまちづくりの方針を実現するために、まちづくりのコンセプトを定めます。

交通ネットワークを活かした賑わいのある拠点づくり

『地域の利便性向上につながる賑わいの場』

- ◆周辺地域に暮らす人々にとって必要な機能を誘導することにより生活利便性の向上を図り、地域の賑わいの場を生み出します。
- ◆この地域が将来にわたって中心的な拠点として発展するよう、多様な都市機能の誘導を図ります。

『みんなに開かれた潤いの場』

- ◆魅力あるオープンスペースを確保し、ゆとりある市民に開かれた潤いの場を創出します。
- ◆子どもから高齢者までの地域住民や、若者等の多くの人々が憩い学ぶことにより、市が目指す「健やかな暮らしと活力に満ちたまち」の実現に寄与する空間とします。

『新しい暮らしが生まれる集いの場』

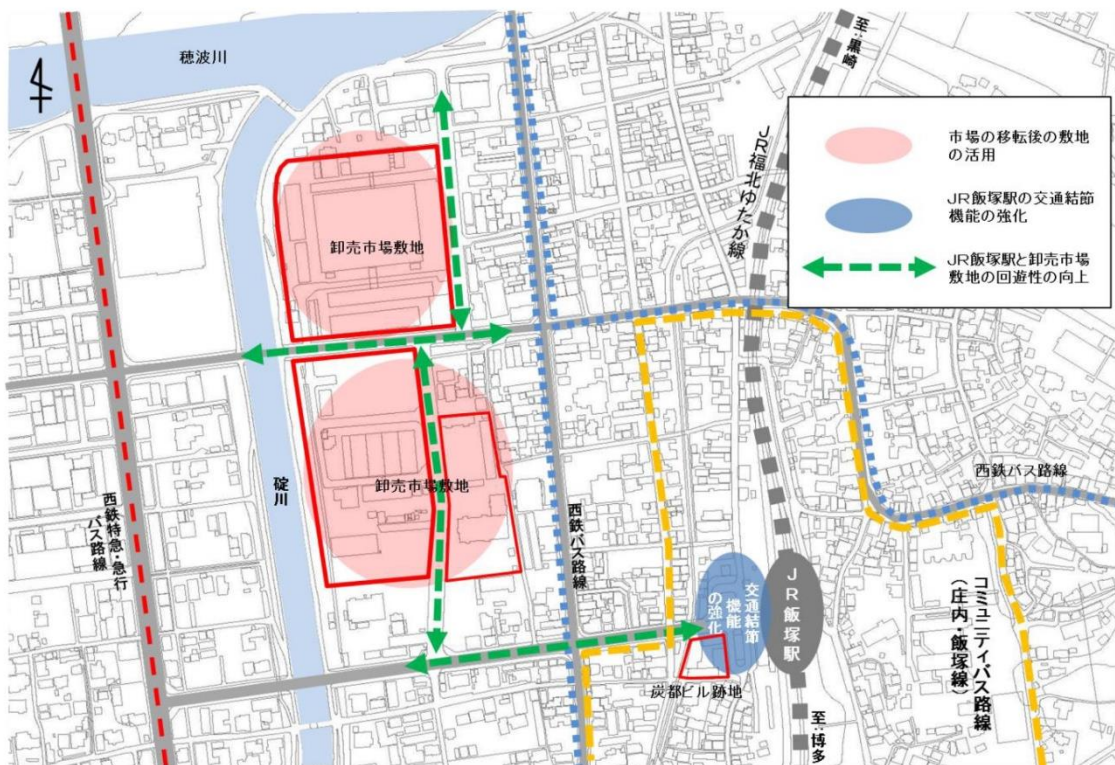
- ◆「健幸で魅力あふれるまちづくり」の実現に寄与する場とします。
- ◆子育てや健康づくり等、市民の新しい生活を支え、いきいきと暮らせる集いの場を創出します。
- ◆JR飯塚駅への近接性、エリアの中心拠点性を活かし、人口密度の維持に資する新しい暮らしを生み出す空間を創出します。

7. 菰田・堀池地区の空間づくりにあたっての配慮事項

菰田・堀池地区の空間づくりにあたっては、まちづくりのコンセプトを踏まえ、以下のような配慮が必要です。

- ◆ J R飯塚駅の交通結節機能の強化
- ◆ 飯塚市地方卸売市場の移転後の敷地を活用したまちづくり
- ◆ 長期未整備となっている都市計画公園の再配置
- ◆ J R飯塚駅と飯塚市地方卸売市場敷地間の回遊性向上
- ◆ 恵まれた広域公共交通軸を活かした都市連携の拠点づくり
- ◆ 民間活力の積極的な活用

<イメージ>



8. 菰田・堀池地区の活性化の実現に向けて

菰田・堀池地区の活性化を実現するために、以下の事項を踏まえ検討を進めます。

- ◆ JR飯塚駅周辺の再生を進め、近隣市町や他の拠点との連携を図りながら、都市機能の維持・誘導と合わせて定住の促進を図ります。
- ◆ 飯塚市地方卸売市場敷地は、整形でほぼ平坦、かつ大規模な敷地条件を効果的に活用して、飯塚市の中心拠点としてふさわしい都市機能の誘導を図ります。
- ◆ まちづくりにあたっては、良好な景観や環境となるよう工夫し、飯塚市地方卸売市場敷地のみならず周辺地域の魅力の向上に取り組めます。
- ◆ 都市機能の整備・誘導にあたっては、民間活力の積極的な活用を図ります。

